

第4回 地域医療貢献奨励賞 受賞者 (平成22年度)

木村 康一	宮城県登米市 医療法人社団緑水会米川診療所・所長
<p>昭和56年自治医科大学卒。長く勤務した公立の米川診療所を平成20年に民営化のうえ引き継ぎ、現在に至るまで22年間にわたり勤務している。地区で唯一の初期医療機関としての診療所運営に加え、他の医療機関や福祉保健機関との連携も密であり、地域の医療充実にとってなくてはならない存在となっている。</p>	
小野 剛	秋田県横手市 市立大森病院・院長
<p>昭和58年自治医科大学卒。住民の視点に立ち、「夕暮れ診療」、「女性専用外来」など、地域ニーズに応える医療サービスを導入するほか、新病院の開設に伴い保健・医療・福祉が一体となった「地域包括ケア」の取組に貢献する。地域医療実習を通して研修医・医学生への育成にも取り組む。</p>	
鈴木 啓二	福島県会津若松市 福島県立会津総合病院・院長
<p>昭和53年自治医科大学卒。県下複数のへき地医療機関で通算16年の勤務を行なうほか、自治医科大学の講師として後進医師の指導に4年間従事した。県内における地域医療の拡充を図る行政機関・公益法人の役職を歴任し指導的な役割を果たす。現在も引き続き南会津地域の地域医療充実に尽力している。</p>	
折茂 賢一郎	群馬県吾妻郡長野原町 西吾妻福祉病院・管理者
<p>昭和59年自治医科大学卒。六合村へき地診療所と自治医科大学の講師とを兼務しつつ、六合温泉医療センターの開設に尽力した。広域の二次医療を担う西吾妻福祉病院の開設にも携わり、同病院に移った後も六合温泉医療センター所長を兼務、365日24時間の体制で救急医療に対応している。</p>	
濱崎 豊	熊本県天草市 国民健康保険天草市立新和病院・院長
<p>昭和54年自治医科大学卒。患者の命を救うには一定レベルの施設を整えることが必須との理念の下、就任当時大きな赤字だった新和町病院の財政の回復に貢献する。平成9年の新病院建設後も、包括医療についての協議実践活動を主宰し、地域医療・福祉向上に取り組む。へき地医療従事は22年の長きに及ぶ。</p>	
長松 宜哉	大分県大分市 社会医療法人関愛会・理事長
<p>昭和54年自治医科大学卒。永年勤務する佐賀関町国保病院が、大分市との合併に伴い民営化されるに際し、これを承継し現在に至る。へき地医療拠点病院として、内科医不在等の診療所に対し、国の医師派遣と協働して医師の派遣を行なうほか、地域に根ざした包括ケアの推進と複数の診療所を開設運営するなど、地域医療の維持確保に貢献する。</p>	